文化、経済の交流継続推進

大地震で支援したハイチと――国際貢献大学校が連携協定

今年1月に発生したハイチ大地震で、被災者に貯水タンクなど救援物資を送った公設国際貢献大学校（新見市）は5日、駐日ハイチ大使館と今後も継続して文化、経済交流を進めるための連携協定を結んだ。北区奉還町であった調印式にはハイチのウィネアー・ジャン・バティスト駐日大使も出席。大使は「被災者、ハイチ国民を代表してお礼を述べます」とあいさつした。

同大学校と交流があり、この調印式にあわせ、被災地に復興を願うメッセージ、千羽鶴などを作った新見市立神郷中学校の生徒も参加した。代表してメッセージを読んだ同中2年、林美紀さん(13)は「ささやかなことだけど、これをきっかけに少しでも被災者を勇気づけられたらいい」と話していた。

同大学校の校営管理者、的野秀利氏は今後について「『AMDA』とも連携して、ハイチの医師会とAMDAの医師をつなぐ役割を果たし、復興を支援したい」と述べた。

【石戸諭】

握手をする的野氏（左から2番目）と駐日ハイチ大使（同3番目）ら＝北区で